



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
TEL 099-285-3012 E-mail : gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/

■ご挨拶

越塩 俊介 理事・副学長（総務担当）・男女共同参画推進センター長



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症によって新しい視点もたらされ、生活様式が変わろうとしています。本学においても、遠隔システムを活用した授業や会議、テレワークの試行、飛沫予防シート設置等でソーシャルディスタンスを保つとともに、一人ひとりが自分の事として、マスク着用や手洗いの徹底等により感染者を出さない工夫をしています。これらの対応がいつまで必要なかと不安になることもあります。これまでの当たり前を問いを立てる機会でもあると捉え、よりよい修学就業の環境整備につなげていきたいと思ひます。

男女共同参画社会基本法施行から20年となりましたが、まだ道半ばです。皮肉にも、新型コロナウイルス感染症は、仕事と生活のバランスや仕事キャリアの継続の難しさ、育児や介護状況における性別による偏った状況等を可視化しました。私たちは、そのことから男女共同参画を強く意識し、改善できることに取り組み、男女共同参画社会を早期に実現させる必要があります。

今後とも、本学の男女共同参画推進へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

■制度紹介

研究支援員制度

本学は、妊娠、育児、介護・看病等期等の本学の研究者に研究支援員を配置し、研究者のライフイベントに要する生活時間を確保しやすくすることで研究と生活の両立を図り、研究者キャリアを継続できるよう支援しています。

令和2年度前期は、18人（うち男性5人）への支援が決定され、8月から2ヶ月間研究支援員が配置されます。

令和2年度後期募集中です

募集期間 令和2年7月20（月）～8月21日（金）

配置期間 令和2年10月1日～令和3年3月31日

申請書類等は男女共同参画推進センターホームページからダウンロードできます。（学内専用）

メンター制度

本学の研究者、医員、研修医、大学院生からのキャリア形成上の相談に応じる制度です。

メンターは、本学の教員等で、84人に委嘱しています。

妊娠・出産、育児、介護、看病、疾病、学生指導、留学・海外経験、外部資金獲得、共同研究等の相談内容に対応しています。

「大学院修了後のキャリアについても経験談を聞いてみたい」「異分野の研究について聞いてみたい」などの相談等も受け付けています。



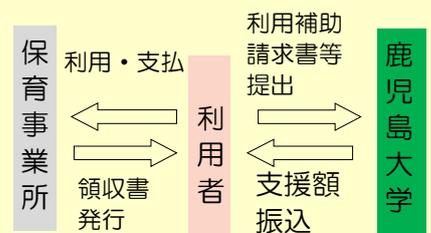
【相談専用窓口】
mentor@kuas.kagoshima-u.ac.jp

保育支援制度

本学に勤務する教職員（非常勤職員含む*）で、土日祝日の勤務や子の病気等により、緊急かつやむを得ず通常利用しているサービス以外の保育サービス利用費の一部補助を行っています。

子どもの年齢は、0歳から中学校就学前までの乳幼児・児童で、「事業者の提供するサービス」とし、1回につき1,200円（利用回数上限有り）を補助しています。

*非常勤職員の場合は、本学の社会保険加入者に限ります。



詳細は、男女共同参画推進センターHPでご確認ください。

一人ひとりが伸びやかに 自分らしく輝くために



■数字で見る鹿児島大学～女性の割合（2020年5月1日値）

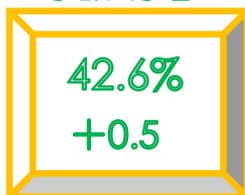


鹿児島大学は、第3期中期目標・中期計画（2016～2021年度：6年間）において、研究者に占める女性の比率は、2020年度までに20%以上とし、役員に占める女性の比率を11.1%以上を維持する、管理職に占める女性の比率は13.0%以上を維持するとしています。



本学の学術研究所属教員の職階別女性割合は、教授10.1% 准教授16.3% 講師20.7% 助教31.5% 助手100%と、上位職になるにつれて少なくなっています。国の第4次男女共同参画基本計画では、指導的地位に占める女性の割合を30%以上としています。

学部入学者



【9学部】	女性割合
法学部	55.2%
教育学部	51.4%
理学部	28.8%
工学部	14.7%
医学部	52.9%
歯学部	52.4%
農学部	48.6%
水産学部	30.8%
共同獣医学部	43.4%

令和2年度の学部入学者における女子の割合は42.6%、学部別在籍者における女子の割合は、理学部と工学部が30%以下となっています。

令和元年度の学校基本調査では、大学における女子学生割合は45.4%で過去最多であったと公表されています。また、全国的に理工系分野に占める女子学生の割合が低いため、国は理工系分野に女子学生を増やす取り組みをしています。さらに同調査から、鹿児島県の高校卒業生における四年制大学への進学率及び四年制大学への女子の進学率並びに四年制大学への進学率の男女の格差は全国最下位です。これらの状況から、女子の四年制大学への進学や理系への進路選択への意識啓発に取り組む予定です。

学部生



大学院生 (修士・博士前期課程)



大学院生 (博士・博士後期課程)



大学院生 (専門職大学院*)



日本の研究者に占める女性の割合は国際比較で下位が続いています。また、イノベーション創出のためには、これまでと違う考え方や視点（多様性）が必要ということから、国を挙げて女性研究者を増やそうとしています。そこで鍵になるのは次世代育成です。研究者キャリアには、大学院への進学、特に博士課程や博士後期課程への進学が必要となります。本学には9研究科がありますが、30%以下のところがあります。30%は、マイノリティの比率が3割を超えると組織の質が変わり始めると言われている数値（クリティカルマス）と言われています。

*数値は、鹿児島大学概要2020より。
但し役員・管理職・研究者については、男女共同参画推進センター調査より。

【9研究科】女性割合	修士課程または博士前期課程	博士課程または博士後期課程
人文社会科学研究科	57.9%	40.1%
理工学研究科	11.6%	20.6%
農林水産学研究科	32.4%	—
医歯学総合研究科	40.7%	27.2%
保健学科研究科	54.2%	30.8%
共同獣医学研究科	—	16.7%
連合農学研究科	—	36.7%
教育学研究科	* 47.6%	30.1%
臨床心理学研究科	* —	83.3%

鹿大の女性研究者に Close-up!



実験操作指導中

千葉 紀香 医歯学域歯学系 発生発達生育学講座 口腔生化学分野
助教

2007年4月 名古屋大学大学院医学研究科 博士（医学）取得
2007年4月 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 客員研究員
2007年6月 同上 技能補佐員
2009年1月 Cedars-Sinai Medical Center (Pediatric Infectious Diseases),
Postdoctoral Researcher
2013年6月 Cedars-Sinai Medical Center (Lung and Regenerative
Medicine), Postdoctoral Researcher
2014年1月 同上、Project Scientist
2017年9月 現職

★研究テーマは何ですか？

主として骨形成に関わる骨芽細胞の細胞内シグナルの解析や、生体防御におけるマスト細胞の役割の解析などに取り組んでいます。

★研究者を目指した理由を教えてください。

正直なところ、特別に高い志があったわけではありません。「研究者ってカッコいいじゃん!」という、ヒーローに憧れる子どものように至極普通の理由で目指した道でした。ただし、外から見たら美しい富士山も実際は非常に険しく困難であると、登山を始めてから気付くのと同じようだと思います。

★研究で苦労されたことと

解決法を教えてください。

仕事で苦労した話は山ほどありますが、研究に限った話ではないように思います。いわゆる「お勉強」とは異なり、聞けば説明してくれる先生がいるわけではありません。自己を研鑽し事実を積み上げ、現象の真に近づく道をひたすら探す。ただし闇雲ではなく、先達による知識を灯火として進むことです。苦労した先に、研究のピースがカッチリ填った時の喜びが待っていることを思い出しながら。

★モットーは何ですか？

「Nothing seek, nothing find」「知的好奇心の賦活」「温故知新」です。研究だけではなく多方面において重要なことだと思っています。また、勉強することの意味についての太宰治の作品中の言葉は、まったくその通りだと沁みます。

★これから研究者をめざそうとする人への

メッセージ

研究の世界は広大で、そして同時に非常に狭いものです。専門的知識や理論的思考力または発想力はもちろん重要ですが、同じくらいに教養や人間性というものが大切になります。日本にいやが海外にいやが、自分勝手に無責任なつまらない人という仕事が出来るとは思われないものです。まずは専門内外の知識や人間性の裾野を広げることです。最終的にどこに辿り着くにしろ、それらは無駄にはなりません。あとはやっぱり体力。



2016年、当時の職場のハロウィンパーティーにて同僚と。ヨーダが私。AT-ATやR2D2は段ボールやバスケットなどを用いて数人で、ベイダーとオビ=ワンのビームサーベルは私が手作りしました。最優秀グループ賞に選ばれたのは嬉しかったです。

■鹿児島大学附属図書館との連携企画

「男女共同参画展」

6月15日～8月12日



国や鹿児島県の男女共同参画週間に合わせて、一人ひとりが男女共同参画について考える機会となるよう、毎年度開催しています。

図書館選定図書の見出しや貸出、鹿児島大学男女共同参画理念及び行動計画等を展示しています。

■歯学系における男女共同参画の現状と将来の方向性



松口 徹也 歯学部副学部長（財務・研究・企画・男女共同参画担当）

歯学系は、歯学部の教員から構成される組織です。歯学系教員は、大学院医歯学総合研究科、大学病院での仕事を兼務している教員も多く、教育・研究・臨床業務に日々奮闘しています。

男女共同参画の観点から、私達は女性研究者増の目標に向け、真剣に取り組んできました。その成果は女性教員の比率に表れており、2019年2月現在の歯学系所属の女性教員の比率は25.0%で、これは大学が目標に掲げる20%を既に超えていると同時に、対前年度比+4.5%という伸び率になっています。更にその後2019年度の新規採用教員17名中、過半数となる8名が女性教員でした。しかし、私達は決して現状に満足しているわけではなく、歯学系内でもまだ十分とは言えない上位職女性研究者の増員も含めた更なる女性研究者増へ向けた体制作りを進めていくつもりです。

具体的には、歯学系の「男女共同参画推進に係わる方針等」に謳っているように、桜ヶ丘キャンパス内にある「さくらっ子保育園」や研究者への支援制度を上手く活用するとともに、男性教員の育児休業や育児参加休暇等の取得の促進を図ることで、出産・育児・介護期の女性職員の支援体制を充実させていく予定です。また、学部運営に女性教員の意見が反映されやすいように、学部委員会や全学委員会への女性教員の参画を積極的に進めていきます。

世界経済フォーラムの2019年版「男女格差報告」で、日本は153カ国中121位とされ、世界レベルでの男女共同参画の遅れが目立つとの指摘があります。歯学系での男女共同参画の推進は、現在の大学に求められているグローバル化の一環だと認識しています。



令和元年12月に開催された女性研究者・若手研究者支援制度等説明会の様子

■地域における取組紹介

地域社会における男女共同参画の実現に向けて、鹿児島県内の大学、短期大学、高等専門学校及び鹿児島県の12機関で設置した「鹿児島県内大学等男女共同参画連携会議」では、参加大学等の取組紹介ポスター2020年度版を作成しました。ポスターは、各機関の取組に応じて、学内展示や配布等がなされることになっており、鹿児島県のホームページにも紹介されています。

■保育園の様子～さつつん保育園「七夕 夕涼み会」

7月4日（土）に、さつつん保育園で「七夕 夕涼み会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度初のイベントとなりましたが、園児とその兄弟姉妹13人と保護者22人の参加があり、盆踊り、ヨーヨー釣り、お魚すくい、お面作り、パネルシアターなどを親子で楽しむことができました。～笑顔の毎日でありますように！～



★ お知らせ ★

令和2年度後期研究支援員制度は、現在募集中です。詳細は男女共同参画推進センターHPで確認ください。例年実施している交流会やセミナー等は、開催内容や開催方法を検討中です。開催が決まりましたらご案内いたします。

